

連載 24 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (63歳・内科)

救急車の世界は命の修羅場



今年の冬も高齢者の病状急変が多くみられました。
ある日、87歳女性の娘さんから往診依頼がありました。最近
食事量が少なく、今朝から大変辛そうだとのこと。

20分ほど先に到着していた看護師から連絡が入りました。
悲鳴に近い声で「脈は1分間に40くらいの徐脈で、血圧は測る
ことができず低体温です。」そう言うと電話は切れました。す
でに家の前に到着していた私は、患者さんを見るなり急いで救
急車を呼んだのです。

同乗した救急車の中は大変な修羅場となっていました。救
命士による気管支挿管、末梢血管確保、点滴静注補液、心臓
マッサージが始まりました。そんな救命士の手際の良さと看
護レベルの高さに私が驚嘆しているうちに、K病院第3次救急

部に到着したのです。

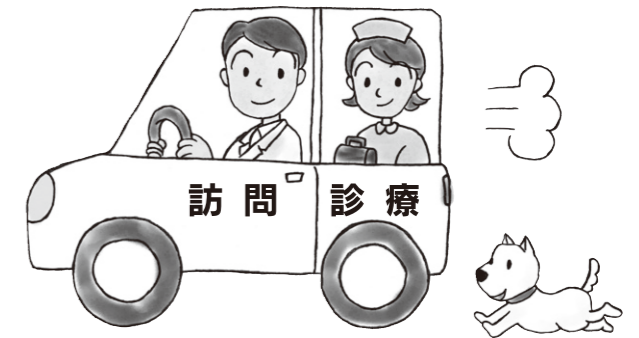
いつもながら高度機能病院の皆様には大変感謝しています。

今年の冬は、高齢者の救急搬送が多かったのです。

今日も救急車に同乗した際、救命士の方に「私は〇〇クリ
ニックの…」と、いつも通り自己紹介を始めたのですが「H先
生でしょう。私は何度も同乗していますよ。大変ですね～」と
おっしゃいました。

往診の三大疾病は発熱、排泄障害、転倒打撲症で、自宅
や施設で対応しています。しかし、生命の危険があったり、
骨折等々により手術適応の場合は救急対応としています。
当然のごとく私も救急車に同乗しているのです。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>